

「食」を取り巻く様々な問題

北進ゼミナール

食料自給率という言葉を知っているだろうか。自国で消費される食料のうち、国内で生産されて供給された食料の占める割合のことだ。**グラフⅠ**は世界各国の食料自給率を示しているが、国によって食料自給率には大きな差がある。人間の生活の基盤を表す「衣食住」という言葉があるが、中でも「食」は人の命に直結する。また「食」はその国の文化も左右する重要な要素だ。そこで今回は、我々にとってとても大切な「食」を取り巻く様々な問題について考えていきたい。

日本では少子高齢化が進み、人口減少が問題になっているが、世界ではむしろ人口増加が続いている。世界人口は2013年に約70億人となったが、2050年には90億人を超えるのではないかという予想がある。人口が増えればより多くの食料が必要になるが、近年は地球温暖化に起因する異常気象が目立ち、食料となる農作物の生産にも様々な打撃を与えている。もちろん、農業生産者や研究者も**傍観**してきたわけではない。例えば、日本では冬の気温が高くても栽培できる「さくひめ」という桃を品種改良によって生み出した。元来、日本の桃は寒冷な土地でしか生産できなかったのだが、亜熱帯でも栽培可能なブラジルの品種と掛け合わせることで、温暖化が進行しても生産できるようにしたのだ。しかし、このような品種改良にはとても時間がかかるという難点がある。

また、世界各国で食生活が画一化されつつあることも大きな問題だ。日本の食生活は戦後急速に欧米化が進んだが、近年では中国やインドでも食生活が欧米風に変化してきているという。多くの人口を抱える両国でそれまであまり食べられてこなかった食品類の消費が増えれば、特定の食料が世界レベルで供給不足となる可能性がある。**グラフⅡ**が示す通り、日本は多くの食料を外国から輸入している。例えば大豆は日本の食文化の中心となる醤油や味噌などの原材料だが、国内自給率はわずか7%に過ぎない。万が一、大豆の輸入が止まるようなことがあれば醤油や味噌の生産に大打撃を与えるだろう。食品やその原材料を自国でまかなえないということは、国家間の関係悪化によって重大な影響を受けるということにつながるのだ。だからこそ、まずは外国との関係において十分な予防策を講じておかねばなるまい。そして、それに留まらず、**資料Ⅰ**のような取り組みも同時進行で必要であろう。

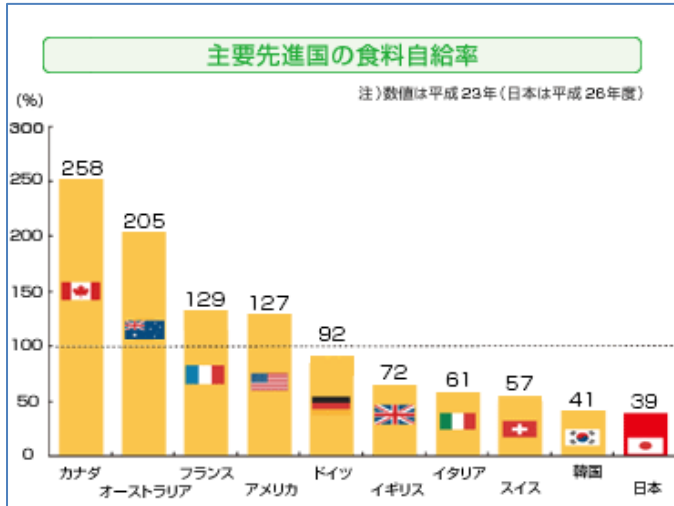
ところで、日本国内においても見逃せない問題がある。食べられる状態の食品が廃棄されてしまう「食品ロス」だ。廃棄されてしまうものには、賞味期限や消費期限が切れたり食べ残されたりした食品だけでなく、規格外の大きさや形であるという理由で市場に出回る前に捨てられてしまう農作物も含まれる。**資料Ⅱ**を見れば廃棄される食品がとても多いことが分かる。この解決には私たち消費者一人ひとりの意識改革が必要だ。賞味期限や消費期限を延ばすためには保存料を添加する必要があるのだが、昨今の消費者は化学添加物の少ない食品を好む傾向があるので、生産者も消費者のニーズに合わせて添加物を減らした食品を多く製造するようになってしまっている。その結果、賞味期限や消費期限が短くなり、消費されずに捨てられてしまう食品が後を絶たないのだ。また、恵方巻きでも話題になったが、イベント向け食品の大量生産・大量廃棄も食品ロスを増加させている一因である。環境分野で初のノーベル平和賞を受賞したケニアのワンガリ・マータイさんが日本で感銘を受けた「もったいない」という言葉に象徴される精神を、私たち一人ひとりが理解して取り組むべきではないだろうか。

このように「食」を取り巻く問題は**多岐に渡っている**。これを機会に自分たちの「食」について自分なりに考えてみて欲しい。

以上

注：傍観(ぼうかん)：手を出さずに放置しておくこと 多岐(たき)に渡る：多くの方面に分かれていること

【グラフⅠ：主要先進国の食料自給率】



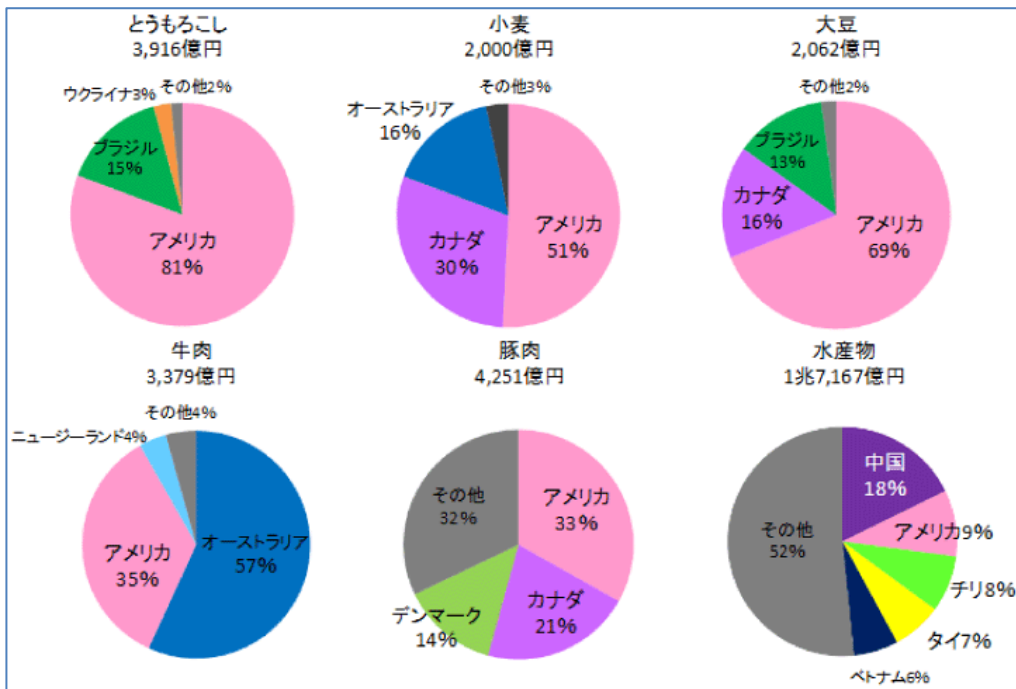
出典：農林水産省「世界の食料自給率」より

【資料Ⅰ：福岡の県民運動】



出典：食育・地産地消ふくおか県民会議ポスターより

【グラフⅡ：食料の品目別輸入先】



出典：農林水産省「知ってる？日本の食料事情」より

【資料Ⅱ：日本の「食品ロス」】



出典：石川県金沢市 HP(農林水産省平成 27 年度推計加工)より

□中学生(小学生希望者)対象課題

「食」を取り巻く様々な問題について

課題文にあるように、「食」を取り巻く様々な問題があります。世界的な人口増、気候変動による影響、食生活の画一化、貿易関係、食品ロスなどです。課題文やグラフや資料から読み取れることを踏まえて、自分自身が関心をもったテーマについて、感じたことや考えたことを述べた上で、どのように解決していけばいいのか、また、どんなことに取り組むべきなのかを、以下の条件に従って書いてください。いきなり作文用紙に書きだすのはお薦めしません。下書きを行った上で別の日に改めて読み直し、誤字脱字・助詞や主語述語の不整合を直した上で清書するようにしましょう。なお、書き方の例が掲載されていますが、必ずしもそれにこだわる必要はありません。

(1)指定作文用紙に 800 字以内で書くこと。タイトルは不要です。

(2)最初に、食料自給率に関して、課題文やグラフⅠ・グラフⅡから読み取れることを書いた上で、感じたことや考えたことを書いてください。以下の例にこだわる必要はありません。

例：日本の食料自給率は…であり、主要先進国の中では…。そして、食品や食品原材料の多くを特に〇〇(国名)からの輸入に依存している。日本の食文化の中心となる〇〇や〇〇が…ということに対して、私は…と感じた(考えた)。

(3)次に、課題文や資料Ⅰ・資料Ⅱの中にある、品種改良・食品ロス・食育・地産地消のいずれか(又は複数)について関心を持ったことについて、その理由をあなた自身の体験を交えて紹介した上で書いてください。以下の例にこだわる必要はありません。

例：私には…という体験がある(以下、いつ頃、どこで、どのような体験であったのかを書く)。だから、特に…に関心を持った。

注)学習・読書・インターネット閲覧・テレビ視聴等で知った知識も体験に含めて構いません。

(4)続けて、(3)の下線部のいずれか(又は複数)について、あなたが考える解決策を書いてください。以下の例にこだわる必要はありません。

例：…について、私は…のようにすればよいと考えた。…の問題の根源は…であると思う。それを解決するには…していくべきだ。そうすれば…のようになるはずだ。

(5)最後に、自分自身がこれから取り組んでみたいことや、気をつけていきたいことを書いてまとめてください。

以上